

すばる小委員会報告(2017/10-2018/03)

前回の学会以降、10/3, 12/6, 12/27, 2/7, 3/7 の5回すばる小委員会を開催したのでその概要を報告する。

■ すばる近況

- ・主鏡蒸着が無事終了し、短波長側での感度が見事に復旧した。12/14 から共同利用を再開。
- ・1/17-19 のすばる UM では、国際運用、将来の科学運用などについて議論した。
- ・すばるの予算は来年度大幅に減額され厳しい状況である。

■ 共同利用

- ・今後の運用形態について観測所の予備的検討を聞き、意見交換を行った。キュー観測ツールを改善して効率を上げ、ナスミス装置の夜間切換えも視野に入れる。SA・オペレータが山頂に上がる負担を軽減し、フルリモート観測を目指していく。
- ・サービス枠で部分採択を行って採択件数を増やすことやプロポーザル申請時の分野の名称を変更することにした。
- ・international 枠について S18B は現行のままとし、上限値を設定すること等を S19A までに検討する。

■ 国際共同運用

- ・EAO では各国から2名の代表が出てすばるとの連携について協議するWGを作ることとなった。
- ・観測所の国際共同運用プランについて方針の大枠を決めた。パートナーが参加しやすいよう、フルパートナーとセミパートナーを設定する、機関単位で装置開発に貢献する institutional collaborator を設定する。ユーザーからの意見を聞き、継続審議とする。
- ・旅費のサポートをした国際運用ワークショップについて引き続き来年度も公募し実施する。

■ 観測装置

- ・PFS 共同利用の観測所による運用プランについてブレインストーミングを行った。SSP と共同利用のキューへの載せ方や、余剰ファイバーの効率的な使い方など検討課題があるが、今後1年程かけてPFSチームとも協議しつつPFSの共同利用公募・運用形態を検討する。

■ SSP

- ・HSC SSP のデータリリースプランについて議論を行った。当初予定していなかった4回目のリリースを設定し、データ公開の遅れを軽減する方向で観測所とHSCチームが協議する。生データの公開時期を変更することも検討する。

- ・ IRD SSP について、装置チームから現状報告を受けた上で検討し、条件つきで 2 月中旬に公募を開始することにした。

■ スペースミッションとのシナジー

- ・ 12/18-20 の Subaru-WFIRST collaboration WS には約 100 名の参加があり、将来の連携のありかたについて協議した。ステアリング委員会創設の提案があった。

■ その他

- ・ 新 TAC 委員長の秋山正幸氏（東北大学）が 9 月から SAC に加わった。
- ・ David Sanders 氏が IfA/UH の代表として 2 月より SAC に加わった。